

インターシップによる地域及び企業ニーズに即した学生教育と キャリアビジョン形成

信州大学 産学官連携推進本部 杉原 伸宏

1. 調査研究概要

○課題名

インターンシップによる地域及び企業ニーズに即した学生教育とキャリアビジョン形成

○申請者

信州大学 産学官連携推進本部

准教授 杉原伸宏

○助成金額

100万円

○目的

インターンシップによる地域及び企業ニーズに即した人材を育成するための学生教育の在り方と、学生のキャリアビジョン形成についての調査研究することで、信州大学におけるインターンシップ及びキャリア教育の現状課題を把握・改善する。さらに地方大学におけるインターンシップへの取組み方のモデルケースを構築することを目指す。

○期間

平成23年1月から平成23年9月

○調査員

信州大学研究推進部長 中島健次

信州大学学生支援課長 金子功

信州大学産学官連携推進本部 長谷川豊

○委託事業者

(株)ソーシャルアーツ・コンサルティング

○調査方法

① 学内ヒアリング調査(※)

信州大学の人文学、教育学部、経済学部、理学部、工学部、農学部、繊維学部、工学系研究科、農学研究科、総合系工学研究科の7学部3研究科へ訪問し、インターンシップの現状・課題についてヒアリングを実施。

(※) 学内ヒアリング調査は、文部科学省「大学等産学官連携自立化促進プログラム【機能強化支

援型】追加交付」の調査研究として実施したものである。

② 先進大学ヒアリング調査

国際教養大学、和歌山大学、愛媛大学、岡山大学、立命館大学の5大学を訪問し、インターンシップおよびキャリア教育への取組についてヒアリングを実施。

③ 実習先ヒアリング調査

テレビ松本ケーブルビジョン、塩尻市役所、伊那食品工業、多摩川精機、信濃毎日新聞の5つの実習先を訪問し、受入理由、信州大学生の印象、大学への要望等についてヒアリングを実施。

2. 調査内容

①学内ヒアリング調査

信州大学はこれまで、大学全体におけるインターンシップの現状が把握されておらず、本調査によって、その実態を明らかにすることができた。課題として浮上したのは、以下の通りである。

〈運営体制〉

- 希望する学生が多いほど実習先とのマッチングの事務局負担が大きい
- 補助金を活用してインターンシップを充実させている大学院課程では、補助金終了後の事業継続が課題

〈学生への教育〉

- 学生からインターンシップの事前教育を充実させてほしいという要望が強い
- 実習先が少なく、インターンシップを希望したが実習できない学生がいる

〈実習先との関係〉

- 大学として、インターンシップ受入先が何を求めているのかを把握できていない
- 長野県内に限定すると実習先が少ないため、学部間同士で実習先の取り合いになることが懸念されている

〈全学的課題〉

- 大学全体のインターンシップを把握する部署が無く、インターンシップの実施状況の把握ができていない

- インターンシップを含めた全学的なキャリア教育の体制・カリキュラムが未整備
- 文系・男子学生のインターンシップ履修率が低い、動機付けが弱い

②先進大学ヒアリング調査

前述した学内ヒアリング調査の結果を受けて、信州大学におけるインターンシップを含めたキャリア教育について課題を解決するヒントを探るため、5つの先進大学を選定してヒアリング調査を実施した。その結果、いくつかの共通点または解決の糸口を発見できた。

第一に、先進大学の多くは、インターンシップをキャリア教育の一部として捉えており、キャリア教育の専任教員を配置している。同教員は、インターンシップ事前・事後教育や実習先とのマッチングおよびインターンシップ後に控える就職活動の相談も学生から受けている。さらに、大学を挙げてキャリア教育に力を入れるために、学部にも所属する教員を対象としたキャリア教育研修を実施する大学もある。

第二に、インターンシップは学生に“気づき”を与える機会と捉えて、インターンシップを更に発展させた課題解決型演習を実施している大学もある。学生同士がチームを組んで企業等から与えられた課題を解決することで、教育効果を高めている。

第三に、インターンシップの実習先を増やすために地域との連携はもちろん、実習先を県外まで求めている。公募型インターンシップに応募する学生のために、エントリーシート等で躓かないようにカリキュラムを組んで、学生の選択肢を増やしている。また、先輩学生やOB・OGを積極的に活用して実習先との良好な関係を維持している。

③実習先ヒアリング調査

本調査は学内ヒアリング調査の結果を踏まえて、信州大学の学生の受入実績のある実習先をヒアリング先として選定した。実習先に対しては、受入の動機、学生への要望、大学への要望の3点を重点的にヒアリングした。その結果は以下の通りであるが、実習先の形態、業種、規模などによって、受入動機や学生への要望、大学への要望が異なる。

「受入の動機」は、実習先からの改善点や満足度向上のための要望を尋ねる以前の問題として、受入依頼時に大学から実習先に対する要望がきちんと伝わっていないと考えられる。その結果、実習先のプログラムが通り一遍になってしまっている。受入の動機として最も多かったのは地域貢献であった。

次に「受入先から学生への要望」として、学生の目的意識が薄いため、働く意義や仕事のおもしろさ、等を尋ねてほしいとあった。一方、課題解決型演習については受入側のメリットもあるため、実現してほしいとの要望があった。

「大学への要望」としては、効果的なインターンシップを実現するために、受入側も苦慮している。受入先の多くは“地域貢献”として学生を受入れているため、より多くの学生を受入れて、地域に残る人材を育成したい、と考えている。

3. 考察

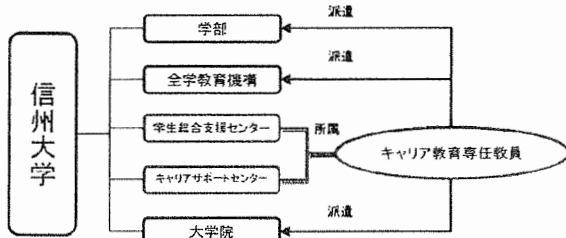
これまで学内ヒアリング調査、先進大学ヒアリング調査、実習先ヒアリング調査を通じて、信州大学におけるインターンシップおよびキャリア教育の改善に繋がるヒントを掴むことができた。しかし、当初の研究テーマである「インターンシップによる地域及び企業ニーズに即した学生教育とキャリアビジョン形成」はどうあるべきか、現状をどのように改善したらよいか、について論じるには、その動機が明確になっていない。一方、キャリア教育を取り巻く大きな流れとして、「初等教育段階からキャリア教育を受けてきた学生が将来入学する」また「学生がインターンシップやキャリア教育の充実を大学選びの基準とするようになる」ことが明確になってきた。これを踏まえると「学生から選ばれる大学づくり」を動機とするのが妥当と考える。以下、これまで実施した3調査結果を参考にしながら、信州大学におけるインターンシップを含めたキャリア教育・体制の改善ポイントをまとめた。

(1)キャリア教育専任教員の配置

事務職員で構成されたキャリア教育体制からキャリア教育専門教員を含めた体制に変えることで、学部を横断したキャリア教

育体制が構築できる。キャリア教育専任教員は、民間企業等で人事・労務管理等の経歴がある、またはキャリアコンサルタント等の有資格者を募集する。

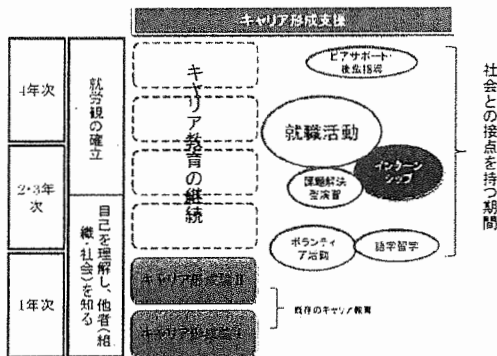
同教員にはキャリア教育科目の再編、学部教員へのキャリア教育研修実施、就職相談支援、インターンシップの理念制定から実習先開拓など幅広く活動してもらう。



図：キャリア教育専任教員の配置

(2) 4年間の一貫したキャリア教育

信州大学におけるキャリア教育科目は、1年次のキャリア形成論Ⅰ・Ⅱと2年次以降の学部毎が設定するインターンシップ（事前・事後学習を含む）のみとなっている。しかし、キャリア教育は卒業するまで継続することで“社会に出る準備”が整い、就業力の向上が期待できるため、4年間の一貫したキャリア教育体制を整備する必要がある。



図：キャリア教育体制の概念図

(3) 地域連携・大学連携による実習先確保

インターンシップに積極的に取り組んでいる大学は、実習先を確保するために複数のメニューを揃えているため、信州大学においても現状を維持しながら新たな取組を提案する。以下、現状の取組を含めて4つのパターンに分けた。

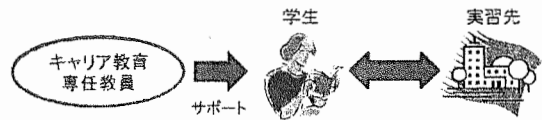
1つ目に、現状維持として、学部や研究科が個々に実習先と提携している、または

研究会に受入を一括して依頼している「学部協定型インターンシップ」をそのまま活用する。



図：学部協定型インターンシップ

2つ目に、新たに配置するキャリア教育専任教員が県内外の実習先を開拓する。開拓の際には企業名でなく職種・職務内容の聞き取り調査を実施することで潜在的需要を掘り起こす。



図：全学インターンシップ

3つ目に、地域や広域で大学同士が連携して実習先を確保する。例えば長野県からアクセスできる東京や名古屋地域の大学が参画するコンソーシアムに参加することで、実習先を確保できる。



図：地域連携インターンシップ

4つ目に、高度インターンシップとして学生がチームで取り組む「課題解決型演習」を設定し、受入先に学生の知恵を還元することで双方に利点があるようにする。



図：課題解決型演習

これら(1)から(3)の改善を並行して進めることにより、学生が求めるインターンシップやキャリア教育を提供することできる。特に、実習先を確保するための4つの方法は、人材の確保が必須ではないため、すぐに取り組める。また、(1)及び(2)に関しては新たな人材を確保する必要があるため、その原資をどのように調達するか、から検討することも含めて、大学の教育改革の一環として取り組む必要があると言える。